

学校法人追手門学院と普代村との 連携協力に係る事務打合せ会議

岩手県普代村

平成27年度の連携協力事業について

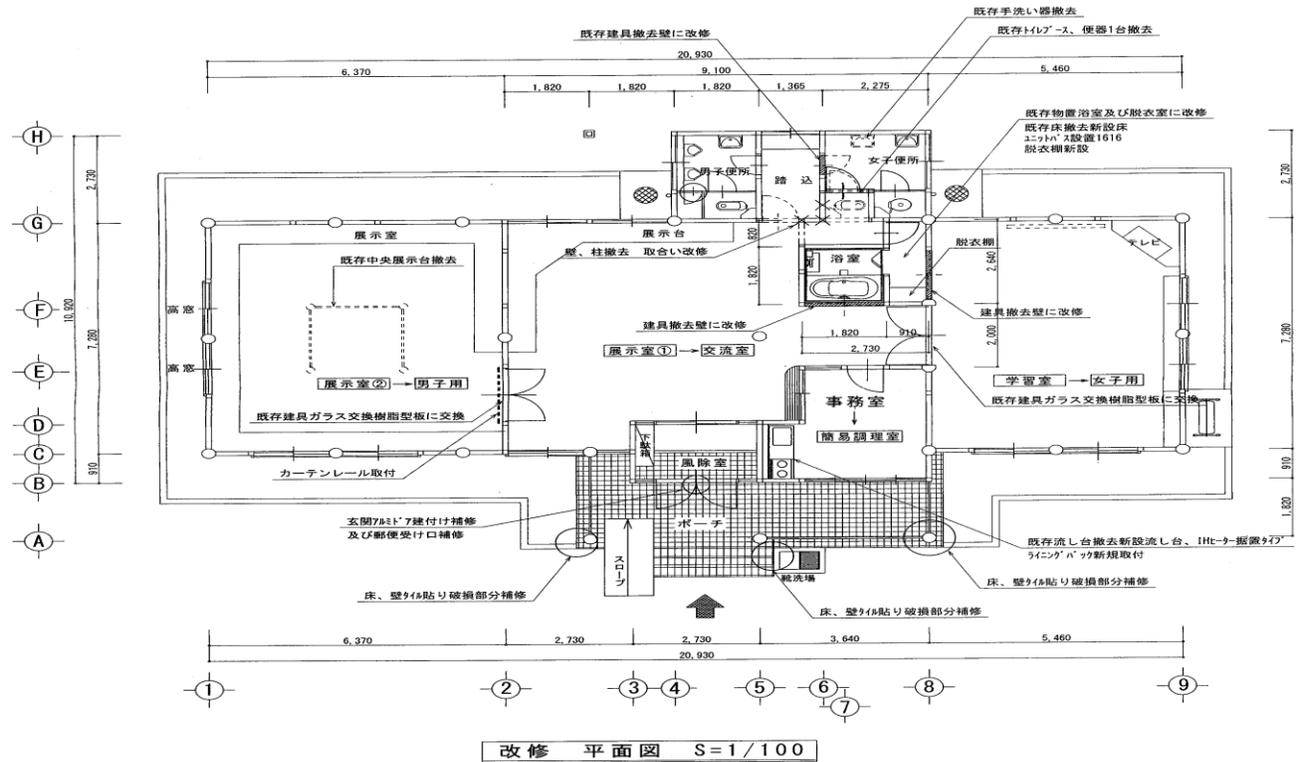
○追手門学院大学地域創造学部学生の普代村への受入について



自然体験学習施設1.JPG



自然体験学習施設2.JPG



平成28年度以降の連携協力事業について

○普代村の各分野における課題について

【地域振興分野】

- ・村の各地域では、特に子供や若い世代の人口が減少し、それに伴い、これまで各地域・集落で行われていた行事、イベントが減少し、地域の活力が失われつつある。（地域創生室）

【福祉分野】

- ・少子高齢化に伴い過疎化が進み、4月1日時点の高齢化率は35.8%となり、村の13行政区での最大率は56.4%と半数以上が高齢者の地域もでてきている状況である。今後も高齢化は一層進み、高齢化による地域課題や高齢者の方々が真に必要とする詳細なニーズを把握する方法が課題となっている。（住民福祉課）

○普代村の各分野における課題について（続き）

【農林水産業分野】

- ・ 東日本大震災に伴う原発事故の風評被害などの影響により、村の特産品である養殖昆布の消費量が激減している。（建設水産課）
- ・ 人口減少、少子高齢化に伴い過疎化が進み、村の主産業である漁業者の高齢化及び後継者不足が深刻化している。（建設水産課）
- ・ 人口減少、少子高齢化に伴い過疎化が進み、農業従事者の減少と高齢化による耕作放棄地の増加に伴い担い手の育成・確保、また、県営農地開発事業により整備した基盤整備地区の営農確立が課題となっている。
（農林商工課）

○普代村の各分野における課題について（続き）

【観光分野】

- ・ 村直営の宿泊施設「国民宿舎くろさき荘」は、一般の利用客が年々減少しており、新規顧客の開拓が課題とされる。一方、教育旅行により三陸沿岸を訪れる学校が増加しており、今後の宿泊施設利用の需要は増加することが期待されるものの、利用者が求める受入規模やメニュー造成ももう一つの課題とされる。（商工観光対策室）

【教育分野】

- ・ 国重要無形民俗文化財に指定される「鶺鴒神楽」の後継者が減少している。（教育委員会事務局）

○普代村の課題解決に向けた大学側との連携協力の可能性について

【地域振興分野】

- ・ 学生自らが地域・集落に入り、地域が持つ課題調査や地元住民との地域活性化に向けたワークショップ、学生考案の地域交流イベント、机上ではない地域の現場を学ぶゼミ合宿を開催。

【大学側からの課題・連携協力実現可能性】

- ・
- ・
- ・

○普代村の課題解決に向けた大学側との連携協力の可能性について（続き）

【福祉分野】

- ・ 村保健センターと地域包括支援センターが各地区で行う、健康相談・健康教室の場において介護のみに拘わらず、過疎・高齢化による地域での課題などの調査・分析が必要と考えられることから、そこから得られる結果をもとに新たなサービス、産業の発掘・開発について住民目線とは違った目線・立場である大学側からアドバイスいただく連携協力事業に結び付けたい。

【大学側からの課題・連携協力実現可能性】

- ・
- ・
- ・

○普代村の課題解決に向けた大学側との連携協力の可能性について（続き）

【農林水産業分野】

- ・水産業関係では、関西方面への養殖昆布の消費回復に向け、大学と連携してイベントへ参加しPR活動・販促活動を実施するとともに、地域の食材を活かした料理レシピ集、新商品の開発を行う。また、附属小・中学生（高校生、大学生）に、普代村の漁業や民泊などを体験してもらう交流事業（ウニ採り体験・シュノーケル教室）の開催や、さらには、新しい発想による、普代村の新たな養殖技術の確立や、起業による新たな産業の創出実現に結び付けたい。
- ・農林業関係では、新たな地域農産物の開発、植物工場などの調査研究、そして、農・林・漁業を組み合わせた一次産業の魅力づくりを創出する。

【大学側からの課題・連携協力実現可能性】

・

○普代村の課題解決に向けた大学側との連携協力の可能性について（続き）

【観光分野】

- ・ 本村は、三陸鉄道普代駅があり、バスの乗換場所として利便性も高い。三陸鉄道（株）と連携した教育旅行向けの旅行商品を開発し、国民宿舎くろさき荘への誘客促進を図る。追手門学院側には認定こども園から大学院までを有しており、教育旅行のターゲットとも一致することから、連携することによる満足度の高い旅行商品の開発が期待できる。

【教育分野】

- ・ 民俗芸能の伝承活動を連携事業で推進

【大学側からの課題・連携協力実現可能性】

- ・
- ・